

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号473にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
 ★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:472 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
 ★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:471 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
 ★JOSO脱プラ基金は注文番号:474 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。

COOP-JOSO News Letter

2021年9月1回号 発行:常総生協広報G



2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

＼地場の秋作シーズンに向けて／ 苗をご自宅で育ててみませんか？

常総生協では「有機農業」の推進をおこなっています。常総生協がかかげる「有機農業」は、単に「〇〇農薬を使っていません」という事ではなく、「人の健康・いのちを支えるもとだね」として考え、健康な土づくりから行っているか、地域やその土地で循環させる農業をおこなっている、またそれを目指しているかを指します。

その推進の一環として、2009年から野菜そのものだけでなく「苗の企画」をおこなってきました。それは有機農業をおこなっている地場農家さんから実際に夏・冬野菜として出荷する苗をいただき「まずは私たち(組合員)でも育ててみよう！」という取り組みです。私たちは生産者に多くの事を求めがちですが、実際に作ってみると様々な気づきがあります。そして収穫の喜びもまたひとしおで、野菜を作る大変さを共に分かち合うことができます。



今年の2月の苗企画でも大変好評だったつくば市の「飯野農園」さんより「固定種」の「伝統野菜」を「自家採種」した「完全オーガニックシード(種)」を使い、「農薬無散布・無化学肥料栽培で育てた」、「組合員の皆様でも自家採種が可能な」苗の企画をおこないます。

現在新型コロナウイルス感染拡大防止の為、様々な事が制約されていますが、こんな時期だからこそ家族で楽しく、野菜を育ててみませんか？

注文期間：9月1回→ お届け：9月2回

405250 「松島純二号白菜」(白菜) 1株 150円(税抜)

405251 「ブロッコリードシコ」(ブロッコリー) 1株 150円(税抜)

405252 「野崎早生カリフラワー」(カリフラワー) 1株 150円(税抜)



※生育状況により前後する場合がありますので、予めご了承ください。また、野菜そのものではなく**苗でのお届け**となります。

※目安として**1株に1つの作物**ができます。なすやピーマンのように多数はできません。予めご了承ください。ご利用をお願いします。

野菜の名前	概要	野菜の特徴
「松島純二号白菜」 ※宮城県にて採取開始された品種	1924年に開発され、およそ100年も前から存続している固定種です。戦後品種改良されるまでは日本でも広く普及していました。	みずみずしく、肉厚で甘みも強く、繊維の抵抗感が少ないので、生で食べることもできます。
ブロッコリードシコ ※イタリアの伝統品種	一代雑種ばかりになってしまった日本のブロッコリーの中で、今も種子が入手できる貴重な固定種です。※側枝の発生が多いので長期間収穫できる場合があります。	茹でてサラダやおひたしなど(塩を加えると緑色が保たれます)がおすすめ。グラタン、煮込み、炒めものにも◎
野崎早生カリフラワー ※日本では愛知県が発祥とされる	日本で最も古い歴史を持つ、固定種カリフラワーの品種です。	小さく分割しさっと湯がいてからサラダに入れたり、グラタン、スープ、炒め物にどうぞ。

交雑(F1)種と固定種の違い

例えば、スーパーなどにおかれている「大根」はどれも均一な形と食味ですが、これは「青首大根」という品種です。耐病性が強く・すがりにくい「宮重長太大根」と、白く綺麗で・暑さに強い「黒葉みの早生大根」の遺伝子が掛け合わせてできたのが、「青首大根」(「青首大根」は合計で4種の交配から成っています。品種によって必ずしも2種ではありません)です。このように異品種を掛け合わせた種を「交雑(F1)種」と呼び、市場流通で主に出回っています殆どのものがこの「交雑(F1)種」です。対して「固定種」とはその品種が固定された地域の気候や風土に適応しているのが特徴で、全国各地で栽培されている「伝統品種」と呼ばれるものは固定種であることが多いです。また、自家採種が可能で、タネ屋(種苗メーカー)から毎年タネを買うことができなく、持続的に野菜を育てることができません。

固定種の利点	交雑(F1)種の利点
味が良い	発芽・生育・形が均一になりやすい
自家採取できる	収穫量が多く、品種によっては通年での栽培が可能
様々な病気に耐病性を持つ個体がある	特定の病害に耐病性をつけやすい
多様性・環境適応力がある	毎年種を販売できる(種苗メーカー利益)

※野口種苗研究所 2019年「タネがあぶない」講演会資料より一部抜粋

タネの現状とジレンマ

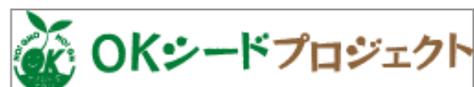
タネの現状については、主要農作物(米、大豆等)は国内で自給されていますが、野菜のタネに関しては8~9割を海外に依存しています(※朝日新聞掲載コラム:「食卓のタネあかし」より抜粋)。また上記の通り、交雑(F1)種は一作毎にタネを購入しなければならずタネ採りができません。直近では「ゲノム編集技術」によりGABA高蓄積トマト苗の開発、流通が始まり、常総生協でも問題提起として2021年1月2回newsletterにて掲載致しました。

作物=栽培方法や近年では「認証(マーク)」に目が行きがちですが、タネそのものについては種苗メーカーが独占しており、個々の生産者だけではコントロールが行き届かないのが現状です。

「全ての作物を固定種にしたら良いじゃないか!」という意見もあるかも知れませんが、安定して、私たちに作物を届けるには、固定種だけでは難しいのも事実です。各生産者は作り手である前に一経営者として、また、自分たちの生活の糧を得るためにも、一定の収入を前提に持続的に作物を作り続ける必要があります。交雑(F1)種のおかげで、生産者は安定的な生産ができ、消費者は誰もがいつでも、そして安く食料を得ることができるという恩恵もあります。しかしながら、視点を変えると、農産物の低価格や形の均一性を求め生産者にそのように作らせているのは、他にもない私たち消費者であることも忘れてはなりません。

常総生協は「OKシードプロジェクト」に参加します!

前述しました2020年12月にゲノム編集したトマトが政府に届け出され、2021年の秋を目途に日本でもゲノム編集された種が一般流通されるという事態に、常総生協としても危機感を抱いています。



特にゲノム編集技術の食品への適用について、政府は安全であるとしていますが、実際には狙っていない遺伝子が破壊されてしまうオフターゲットの問題や、狙い通りの遺伝子が破壊できた場合でも想定外の変異が起きたり、想定外のタンパクが生成されたりする問題も報告されています。最も問題なのは**表示なしに生産・流通が可能である**ということです。種苗にも表示が不要なので、普通のタネだと思い購入したらそれがゲノム編集されていて、知らない間に栽培してしまうかもしれません。このままでは日本における食はゲノム編集されているかどうか、一切区別ができなくなり、生産者も消費者も知る権利、選ぶ権利が奪われてしまうことになります。政府は種苗や食品での遺伝子操作の有無の表示を義務化すべきだと考えます

一方で、政府も**しっかりとした根拠があれば、種苗や食品に「ゲノム編集ではない」と表示できる**ことを認めています。種苗に「ゲノム編集ではない」表示ができれば、その種苗を使った収穫物にも、その収穫物を使った加工食品にも表示ができ、食を守れることが可能になります。そこで種に携わる有識者が集まり、種苗の生産に関わる関係者、農家、加工業者、食の安全に関心のある消費者たちが相談を重ね、種苗や食品にゲノム編集されていないことを自主的に表示するOKシードマークを作り、それを広げる**OKシードプロジェクト**を開始しました。

OKシードマークを使う場合には使用申請・登録が必要になりますが、その使用は無料です。今後、このプロジェクトではOKシードマークを日本全国で広げることで、ゲノム編集食品の問題について考える機会を作りだし、市民が食を選ぶ権利を守るように活動をしていく予定です。常総生協としても種苗生産や食品生産・流通に関わる多くの方たちやすべての消費者にOKシードマークを広げていきたいと考えております。

現在、地場生産者を中心に種・苗購入ルートの聞き取りを行っており、今後はゲノム編集ではないという「根拠」についてのどのように証明できるか、検討を進めてまいります。種の問題についても、生産者任せにするだけでなく私たち消費する側も注視し、正しく選択できるよう理解を深めることが重要となります。

【書き手の紹介】

都留和葉さん。大学4年生。組合員のお子さん。

中学生時代、制服を巡って「性の多様性」を学校に認められなかった経験をする。本来であれば「多様性」を学ぶ場こそが「学校」であるべきではないか？、現在の「遅れた」教育はいついつから始まったのか問題意識を持つ。高校に入って、本格的に「戦争」や「社会問題」に関心を寄せる中で、「祖父の戦時中の記憶」に強く惹かれ、この祖父の経験を残したいと考えるように。現在、「戦争と教育」をテーマに卒業論文に取り組んでいる。「戦時中の教育」を比較対象とし、戦争体験者へのインタビューから「現代の教育」との違いや変化を考察。これからの教育が、どう変化していくべきなのかを、模索している。

今回は、彼女が「残したい祖父の戦争体験談」を寄稿いただきました。

祖父の体験

1931年、満州事変の年に祖父は東京で生まれました。祖父の父は会社を設立しており、軍事工場だったそうです。小学校に入学した際、同盟国だったドイツの曲「美しきドナウ」を鑑賞したり、登校時には奉安殿に敬礼した話をしてくれました。1944年、海軍養成学校である私立海城中学校に入学。海軍士官学校のような、黒服に緑のモール、鉤ホック留めの服と編み上げの靴と言うおしゃれな制服を着ていたと話していました。この翌年祖父は東京大空襲により家を失います。祖父は焼け野原の中、焼け跡から見つけた柱などを使ったバラックに2ヶ月間、家族4人で住み込み、その後、母と祖父、弟、妹で大分の親戚を頼って家族で疎開しました。その親戚の家は日本軍の基地に近く、家の蔵にはたくさんの爆薬が入っていたそうです。祖父の母はそれを知るとすぐに、その親戚の家を後にし、元遊郭のお座敷だった建物に移り住んだそうです。そのまま、大分で終戦を迎え、東京に戻ってきました。

私にとって「教科書の中」で捉えていた話が「現実」だと感じる瞬間でした。中でも衝撃的だった祖父の話が2つあります。

1つ目が東京駅に落ちたパンプキン爆弾のエピソードです。祖父の父の会社は日本橋にあり、祖父自身はパンプキン爆弾の被害には合わなかったものの周囲には大きな被害が出ていたそうです。私が何より驚いたのは、このパンプキン爆弾が原爆実験だったということです。

2つ目に祖父が疎開する際に機銃掃射を受け蒸気機関車の運転手と線路の横の田んぼで草取りをしていた老人が亡くなった話です。祖父自身、「あの時は死ぬかと思った」と話していました。

他にも、空襲を逃げ延びた話など様々な話を聞きましたが、私が感じたのは「常に死と隣り合わせにあった」と言う祖父の人生です。そして、「戦争によって死ぬ」と言うことが「栄誉」だと肯定してしまう「政府」と「教育」が存在していたという恐怖でした。

そして、改めて「一番時代が遅れているのは、教育現場」という現状を変えるには、今を生きている私たちが過去から学ばなくてはならないと思いました。私たちの世代は「戦争に関心がない」「社会問題に関心がない」と言われてしまうことが多くあります。しかし、関心がないわけではありません。様々な問題に対して、どのようにアプローチをし、発信していけばいいのか、どう言葉にしていえばいいのか。わからないのだと思います。これも「現在の教育」の1つの課題だと思います。

2021年度 第2回理事会 開催報告

開催日時：2021年7月28日（水）10：00-12：00

開催場所：常総生活協同組合 2F組合員活動室（オンライン参加も可）

（議案事項）

- 【第1号議案】第I四半期決算報告の件
- 【第2号議案】生協まつり運営の件
- 【第3号議案】秋の強化月間方針
- 【第4号議案】OKシードプロジェクトの件

（報告事項）

- ①7月の事業報告
- ②活動報告
- ③災害支援報告
- ④その他

○第I四半期損益状況

- 供給高 2億5302万9183円（前年比89.2%、予算比96.5%）
 - 共同購入 2億4493万3403円（前年比89.6% 予算比96.6%）
 - 店舗 809万5780円（前年比78.8% 予算比91.5%）
- 販管費計 711万6239円（前年比105%、計画比 99.0%）
 - 人件費 4189万92円（前年比106.1% 予算比99.7% 人件費率16.56%）
 - 物件費 2927万2347円（前年比105.5% 予算比98.1% 物件費率11.57%）
- 事業剰余 △273万6468円（前年差△1398万5397円、予算差△245万3780円）
- 経常剰余 +256万3485円（前年差 △1363万6157円、予算差△210万7041円）

○第I四半期決算の状況説明

昨年の宅配ニーズの高さから、利用増、組合員純増傾向があり、比較すると利用状況は落ち着き、減収となりましたが、支出を抑えて経常利益で増益という結果になっている状況です。

第106回 脱原発と暮らし見直し委員会 報告

2021年7月14日(水) Web会議 13時半～16時 組合員8人参加。

Zoomを利用し、Web会議で開催しました。ミャンマーへの千羽鶴に糸を通す作業をしながら参加の組合員もいました。セシウム測定値、イノシシ肉を特産品にする県の動きに反対する生協の申し入れ書、東海第二原発運転差止訴訟などについて情報交換しました。

- 各地の放射性物質測定結果では、野生動物、山野草などからセシウムの検出が続いています。特にネット販売にご注意ください。測定して確認しましょう。
- 市民放射能測定のみんなのデータサイトから放射能の「食品基準値100Bq/kg緩和」反対の署名継続中です。ご協力よろしくお祈いします。
 - 署名に関するお知らせページは[常総生協ホームページ](#)お知らせ一覧から探るか、もしくは右記QRコードを読み取ってページにいきます。
- 茨城県が取り組もうとしているイノシシ肉の利用拡大プロジェクトに反対する申し入れ書を検討しました。生協単独だけでなく他の生協とも連携して県や県会議員へ提出する予定です。
- 東海第二原発差止訴訟では、賛同人を増やすための折り込みチラシを配布します。
- 関東子ども健康調査支援基金が感染症拡大防止で中止していた甲状腺検査を6月から再開しました。
- 東海第二原発再稼働をめぐる県民投票のドキュメンタリーが自主映画コンペ「ぴあフィルムフェスティバル アワード2021」に入選しました。機会があれば上映会を行い、貸出DVDにも追加予定です。

「食品等の出荷制限」における放射能物質100Bq/kg緩和の署名を知らせる



★次回は、9/15(水)13時半～Web会議の予定です。8月はお休みです。Web会議には生協からも参加できます。

委員会はどなたでも自由に参加できます。

参加希望の場合は常総生協HPの「[組合員専用お問い合わせ](#)」フォームから事前にご連絡ください。

9月1回 商品部news ～ローズポーク・茨城牛値上げのお知らせ～

今週お届けしている9月1回カタログ6ページでもお知らせしていますが、次回9月2回よりミートパル村山さんに加工をお願いしている「ローズポーク」と「茨城牛」が大幅な値上げになります。以下、今回の値上げについてのお知らせとなります。内容をご確認いただき、ご理解ご協力の程お願い致します。

〇値上げに至った経緯について



常総生協でお届けしている「ローズポーク」「茨城牛」の加工は「ミートパル村山」さん（土浦市）が行って来ています。村山さんと生協のお付き合いは、常総生協が設立された当初からなので40年以上になります。地元のお肉屋さんとして組合員の皆さんに品質の良い肉を届けたいという思いから、自分自身の目で枝肉（屠畜された豚や牛のお肉）を必ず確認し、納得のいく物だけを仕入れて生協用に加工をしてくれています。

この間のお付き合いの中で村山さんから、**コロナの影響があり店舗や外食産業向けの売上が減少している事、海外からの豚肉や牛肉の輸入量が減ってしまい、国産（茨城県産も例外ではありません）の肉の需要が高まり原料肉の価格が高止まりしているため、今の価格で商品のお届けを続けるのは非常に厳しい**とのお話を伺いました。

売上の減少や原料価格の高騰などの状況があった中でも、組合員さんに美味しいお肉を利用しやすい価格で届けたいとの思いで、ミートパル村山さんは**20年近く価格据え置き**で頑張ってくれていました。この話を受け、生協では「どうやって常総生協の組合員に想いを寄せてくれている地元の生産者（加工者）を応援できるのか」議論がなされ、結果、組合員の皆さんにもご協力頂き、値上げをしてミートパル村山さんを支えていくことを決定しました。**村山さんからは、組合員さんに負担をかけるのは忍びないとの申し出がありました**が、生協と組合員さんに対する村山さんの長年の想いと努力に感謝し、今度は私達が村山さんを支えていきたいと思えます。

現在、ミートパル村山さんのように地元の消費者と直接繋がり、加工してくれる「町のお肉屋さん」は激減しています（土浦周辺ではミートパル村山さんを含めて3件しかありません）。大手量販店の精肉コーナーのように、問屋から仕入れた原料肉をそのまま加工して販売するのではなく、屠場まで行って自分の目で現物を確認し、納得した原料肉だけを仕入れて加工してくれる貴重な存在でもある「ミートパル村山」さんを応援する為にも是非利用を継続して頂ければと思います。

この20年間、豚・牛の肥育に必要な飼料価格高騰による原料肉の値上がり、皆さんへのお届けの際に使っている資材（トレーやパック等）や人件費など商品のお届けに関わるコスト増もありましたが、「組合員さんの為にも何とか頑張ります」という村山さんの思いに甘んじて価格の修正を速やかに実施出来なかった部分については、常総生協としても反省すべき点です。

現在のミートパル村山さんの状況（2019年からの2年間は村山さんが加工するお肉全体の9割近くが生協への納品でした）からすると、これまでの価格設定でのお付き合い継続は限界に近づいており、商品の販売価格を大幅に見直すことでしか、改善は望めません。そのようなことから、今までの価格設定を大きく見直し、ミートパル村山さん、生協、組合員の皆さんが協力して、継続可能な取組みに転換せざるをえない状況です。【生産－加工－消費の関係づくり】の視点から「持続できる商品企画」へのご理解をお願いする次第です。



○定番品の値上げ価格一覧(9月2回カタログから) ※下記の内容の価格となります

商品名	規格	旧価格 (税込)	→	新価格 (税込)	差額
村山さんの(山方)切り落とし	200g	707		896	189
村山さんの(山方)牛豚合挽肉	250g	578		754	176
村山さんの豚レバー	300g	227		356	129
村山さんのローズポーク小間切(タレ付)	250g	464		508	44
村山さんのローズポークロスしょうが焼	250g	643		713	70
村山さんのローズポークロスしゃぶしゃぶ	300g	875		929	54
村山さんのローズポークモモスライス	250g	535		570	35
村山さんのローズポークバラスライス	250g	562		595	33
村山さんのローズポークバラブロック	300g	632		700	68
村山さんのローズポークバラブロック	500g	1037		1162	125
村山さんのローズポーク小間切	150g×2	427		497	70
村山さんの徳用小間切	200g×2	556		659	103
村山さんのローズポークモモブロック	500g	1058		1112	54

※「村山さんのローズポーク挽肉、ヒレブロック、肩ローズ切身」については価格改定はありません。

○今後の豚肉の企画について

大幅な価格見直しに関連し、現在企画している「ローズポーク」とあわせ、組合員の皆さんがより利用しやすい価格帯の豚精肉も商品ラインナップに加えていく予定です。ミートパル村山さんに納得できる生産者を見極めてもらい、生協の担当者も現地を確認した上で、「村山さんの豚肉」としてお届けできる茨城県産の豚肉(ローズポークではありません)をカタログ紙面で企画する方向で現在準備を進めています。

○村山さんから組合員の皆さんへ(一部抜粋)

常総生協の組合員の皆様には、長期にわたり茨城県銘柄豚ローズポーク、茨城牛をご利用頂き誠にありがとうございます。ミートパルの村山です。私達は、食肉加工の専門であり生産の方はしていませんが、茨城独自の豚肉、牛肉のブランド力を守りたい思いがあって日々活動しています。2019年からの2年間は、コロナの影響がとても強くローズポーク、茨城牛の生産者が激減していき、生協の方に9割に近い納品をさせて頂きました。組合員の皆様にはとても感謝しております。皆様に日頃からお世話になっているにも関わらず協力をお願いすることになり申し訳ありません。これからも安全で美味しいお肉を提供すること、常総生協と一緒に色々と新商品を考えて企画していく所存であります。



↑村山さん(左端)とミートパルの皆さん

★右のQRコードから、ミートパル村山さんの加工場に取材でお邪魔させて頂いた時(2020年です)の動画がYoutubeで見いただけます。実際の加工の様子や村山さんからのコメントもありますので、是非ご覧ください。村山さんへの応援メッセージも募集中!意見欄にてお寄せください→

